

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

第 29 号

平成18年12月12日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

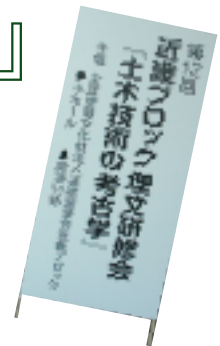
第12回

全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック埋文研修会

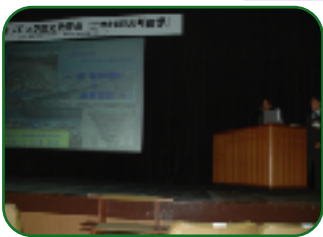
『土木技術の考古学』

平成18年10月27日(金)
開催

和歌山県民文化会館において開催



発表者の顔



和歌山県文化財センター 村田 仲原 狭山池博物館 有井さん(講演)



大阪市文化財協会 小田木さん



大阪府文化財センター 正岡さん



滋賀県文化財保護協会 吉田さん



大阪府文化財センター 辻さん



向日市埋蔵文化財センター 松崎さん



京都市埋蔵文化財研究所 柏田さん

近畿の法人職員のために埋文研修会が毎年開催され、今年で12回目を数えます。今回は和歌山県で開催することになり、近年、調査事例が増加し、話題になることも多い「土木技術」をテーマにしました。
大阪府立狭山池博物館の有井氏に「築土構木 進化論への懐疑」と題した講演をして頂き、各財団によって7本の関連する発掘調査事例の発表をおこないました。
和歌山県文化財センターからは村田・仲原が「川の堤防・海の堤防」

として、窪・萩原遺跡(かつらぎ町)と県指定史跡水軒堤防(和歌山市)の発掘調査について報告をおこないました。(仲原知之)

— 第29号の主な内容 —

1. 全国埋蔵文化財法人連絡協議会 第12回近畿ブロック埋文研修会 「土木技術の考古学」の報告
2. 普及事業の活動報告
3. 【コラム考古学の散歩道13】 「韓国国立中央博物館 見てある記」

韓国国立中央博物館見てある記 富加見泰彦

昨年10月、韓国国立中央博物館がオープンしました。開館時はかなりの混雑が伝えられていたので3月の訪韓となりました。大韓航空機で出発しましたが、昨今の韓流ブームを反映してか乗客のほとんどが日本人観光客でした。かつて韓国への玄関口は金浦(キムポ)空港でしたが、現在は広大な干潟を埋め立てた仁川(インチョン)国際空港となっています。フランスのシャルル・ドゴールの大きさにも驚かされましたが、仁川国際空港は、アジアのハブ空港を目指すだけあって広さには圧倒されました。市内への移動は料金がやや高めですが、空港バスが便利です。多少時間がかかってもという方は、ソウル市内まで750ウォンを支払い、路線バスで風景を楽しみながら各駅停車で中心部まで向かうのもいいでしょう。最近、ガイドブックも充実しているので目的にあったものを事前に国内の書店で購入されるのがいいと思います。

中央博物館は、一日では見学しきれないと聞いていたので、開館と同時に入場できるようにと翌日は、早々にホテルを出発しました。博物館は、地下鉄ソウル駅から地下鉄14号線、1号線の「二村(イチョン)駅」で下車します。地下鉄を利用する場合ソウル駅乗り継ぎが便利でした。二村駅の2番出口を出るとすぐ左手に巨大な白亜の博物館が見えてきます。開館時間は平日が午前9時～午後6時、土日祝日は午後7時まで開館で、休日は1月1日と毎週月曜日(月曜が祝日の場合は翌日休館)のみ。正月休みを利用して行くことも十分可能です。ただし、日本の緯度でいうと佐渡、新潟あたりなので防寒には十分な対策が必要でしょう。建物は、近距離では写真に収まりきれないほど大きく、展示の総距離は4kmを超えるそうです。展示は日本語の音声ガイドもあるので安心ですが、留学中の友人の話では音声ガイドを使用して見学すると11時間を要したそうです。ひたすら体力勝負です。

展示館は、3F建てで考古館、歴史館、美術館Ⅰ、寄贈館、美術館Ⅱ、アジア館からなっています。1Fのホール右側は10室に区切られた考古館で、旧石器室から渤海室まで民族文化の起源と時代をおって韓国を代表する遺物が4500点展示されています。これまでに各地の博物館で見学したり、図録等で観ていた遺物が一同に集められているので圧巻です。韓国文化の真髄を目の当たりにすることができます。写真撮影が原則的にOKなので、開かれた博物館という印象を受けました。写真は個人的に興味のある原三国時代、高句麗室、伽耶室、新羅室の一部を掲載しました。新羅室の展示では和歌山県になじみのある家型はぞうが展示されていたので興味をそそられました。レストラン・喫茶室も備えミュージアムシップも充実しています。レストランのビビンバはなかなか美味でした。展示図録が早売り切れとのことで買い求めることができなかったのが残念でした。展示はやはり一日では見切れなかったのが機会があれば再度訪韓しようと思っています。興味をお持ちの方には、フライトの関係で最低でも2泊3日の行程がお勧めです。往復の航空券とホテルを予約し、ツアーでなく勝手に行きたいところにぶらりと行くというのもいいものです。



中央博物館正面



1F 左：考古館 右：歴史館



原三国時代の土器



高句麗の影響を受けた金属器



新羅土器：中央に家型はぞう



安羅伽耶の土器

普及事業の活動報告

今年の夏から秋にかけて、さまざまな普及事業を展開することができました。まだまだ準備不足や広報の不充分さなど反省すべき課題が多く出てきました。少しでも多くの方々にセンターの活動について知ってもらいたいと思います。そこで簡単ではありますが、実施した活動について報告させていただきます。今後も継続してイベントを実施していきますので、一度参加してみてください。イベント案内は、『風車』やホームページに掲載しますので確認して下さい。

第16回速報展「紀州の歩み」

期間：6月26日(月)～9月29日(金)
場所：きのくに歴史探訪館

(センター調査事務所)

展示室の認知度の低さと土・日・祝日に開館しないため来館者数は少なかったですが、展示ケースで遮らずに、間近に見て、より深く観察できる展示したので、来館者には満足してもらえたと思います。

【来館者の感想】

- ・コンパクトにまとまり良かった。
- ・展示の仕方がわかりやすい。
- ・出土状態の写真があり分かりよい。
- ・丁寧に説明して頂いて理解できた。
- ・出土場所を明示して欲しい。

来館者の様子



展示室風景



第2回 歩いて知る紀の国歴史探訪 ～和歌浦の散策～

日時：11月23日(祝) 10時～12時
講師：菅原正明氏・鳴海祥博氏

この企画は、センターが調査した遺跡と保存修理した文化財建造物などの文化財について、見て触れて・深く学ぶ、というもので、今回は和歌浦周辺を歩きました。

コースは、不老橋↓海禪院↓東照宮(重要文化財)↓天満神社(重要文化財)。

景勝地和歌浦に建つ桃山時代～江戸時代初期の建造物や妹背山に埋納された経石などについて、専門的な情報をわかりやすく解説して頂きました。

菅原さんの解説



鳴海さんの解説



第3回 歩いて知る紀の国歴史探訪 ～旧中筋家住宅と和佐の歴史遺産～

日時：11月25日(土) 13時～16時
主催：県文化財研究会和歌山支部とセンターとの共催

旧中筋家住宅の現場や周辺文化財(歓喜寺・和佐王子跡など)を案内しました。参加者は総勢40人となり盛況でしたが、主屋内部では部屋に人が一杯となつてしまい、盛況なこゝと、充実した見学状況とは、相反するものと実感しました。参加者の方々は実に熱心で、県外からの参加もあり、建物そのものと、修理の状況を良く見て頂くことができ、文化財普及啓発の良い機会になりました。

見学風景



御船さんの解説



